岩国市中小企業等振興審議会　第二回審議会議事録

日時　平成30年5月24日（木）14：00～15：30

場所　岩国市役所　会議室41・42

出席者　委員１５名（欠席０名）　別添のとおり

　　　　事務局　産業振興部長、商工振興課長、商工振興副課長、ブランド推進班長、

企業労働班長、班員２名

その他　０人

１．中小企業等振興事業の取り組み状況

（事務局より　説明）

　　・現在の岩国市の取り組み状況について事務局より説明（資料１）

（委員）「創業者」について、定義を伺いたい

（事務局）岩国市としては、未創業の方及び創業して１年以内の方としている

（委員）山口市では、創業して２～３年で色々と課題が見えてくるということから、創業してから５年間を応援期間としている。期間の延長をしてはどうか

（会長）資料１をみると、創業に関する事業の予算が前年度に比べて増額しているようにみえる。岩国では創業についてどのような状況なのか。

（事務局）資料１では、平成28・29年度決算及び平成30年度予算を定時しているため、増額のように見えるが、実際は例年予算額に大きな変更はない

（会長）商工会議所で創業カレッジを開催しているが、創業の状況はどのようなものだろうか

（委員）今年四回目の開講となるが、創業カレッジの受講者は20～30人程度となっているが、年度によって創業する受講者の人数にはばらつきがある。補助金に関しては、制度上小額の補助になってしまう方もいるが、年々創業される方は増えていると感じている。

（委員）まちづくり岩国でも、創業セミナーをかつて実施した。実際街中に拠点を置いて活動をしていく中で、創業する、お店を出すことに関する関心は高まってきていると感じている。

受講者の人数は定員があるため横ばいだが、問合せの件数や実際にお店を出されたあとのアフターフォローなど、新たに創業者同士のコミュニティが自然発生し、育ってきている。麻里布を盛り上げるための非公式の会を自発的に設立される方もでてきた。これらは施策の成果と思われる。

（会長）中心市街地活性事業に関しても、予算が増額しているように見えるが先述同様で予算決算が毎年このような金額となるということか

（事務局）そのような解釈になる。

（会長）隠れ家探訪について、どういった情報の発信をしているのか。

（事務局）市街地にサプワンという岩国市のお店の季刊誌があるのだが、その季刊誌に新規創業されたお店を紹介している。

（会長）季刊誌に掲載するお金ということか？

（事務局）季刊誌の掲載料という形。

（委員）創業に関して、コミュニティの場が必要だと感じる。創業するまでは手厚いが、創業したあとにうまくいかないこともある。そんなときの交流の場が欲しいという声もある。政策金融公庫では利用者の交流会など実施しているが、金融機関ごとの交流となってしまうため、市全体で盛り上げるためには市で旗振りをして交流の場をつくった方がよいのでは、と思う。

（会長）創業者の相談場所や不定期な交流の場は確かにないように感じる。このあたりは議題３で検討したい

（委員）中心市街地活性化対策事業の中でまちなかリニューアル補助制度があるが、中心市街地以外にはどういったことをしていくのか。例えば旧町村の商店街とか。

（事務局）特には実施していない

（委員）そのあたりも考えたほうがよいのでは

（会長）防府市でも中心市街地の店舗リニューアルの補助金はあったが、中心市街地以外の補助に関して検討していた。今回も店舗リニューアルの件は議題の３と関連してくる

（事務局）これらを踏まえ、議題３で新規事業の提案を検討している

（会長）前回の審議会でも話題となった若者就職支援事業で、中・高生を対象とする事業が実施されている。今回はどちらかといえば大学生を対象にした人材マッチング等の補助を議題３で議事にあげる。

（会長）事業承継に関してはかなり深刻な状況のわりには具体策を実施していない。現在は担当者間の話し合いレベルなので難しいとは思うが、やっていく必要があると思う。

　個人的には観光の分野でプロモーションや協議会に力を入れている印象なのでもう少し具体的に関連した事業として実施するとよいと思う。

　地域資源の活用では、地域資源をもっと活用していこうというのがメインになっている。地域ブランドを作って、対外的に売っていく、これは市外の方に買ってもらって生かす、ということだが、逆に市内で買うとなると、観光と関係して市内で盛り上げるべき。

ここにも繋がっていると思うが、これではまだ少し具体的には分かりづらい。委託という形でもお金をだしているので、情報収集してもらい、効果までわかると、市民への説明の材料になるのではと感じた

２．中小企業等に係る新規制度説明

　（事務局より説明）　「生産性向上特別措置法」成立に伴う「先端設備導入計画」認定制度について（飼料２）

　特に議論なし

３．平成31年度に向けた新しい中小企業等振興施策について

　（事務局より説明）平成31年度施策たたき台について（資料３）

・-店舗リフォーム事業について-

（委員）案ということで、現在実施しているリニューアルに即したしたものと思われるが、「対象」の中の３番の「一般市民が等しくその賑わい・利便性を享受できるもの」とあるが、これはいわゆる中心市街地であれば該当すると思うが、それ以外の場所はどういった意味になるのか。

（事務局）まだ内容については詰めたものではない。現在衰退している商店街に対して少しでもお力になれれば、というところ。中心市街地ほどではないが、その地域でのにぎわいをもたらして、活性化に繋がればというような提案の意味合いとしている。実際に実施となれば表現は変わると思われるが、今の時点ではこのような提案とさせてもらっている。

（委員）商店街に限ったものではないと理解してよいか。

（事務局）その解釈で間違いない。商店街だけを対象とするものではない。

（会長）3の要件はなしでも良いかもしれない。

（委員）先ほどあった防府市の話で、商品券による運営が良いと思う。防府市で実施があるということなので、商品券の取り扱い等については防府市から情報提供してもらうと良いのでは。

（事務局）岩国市の場合既に流通している共通商品券はないため、全く同様のやり方は難しいと思われる。

また、市内業者に発注することを要件とすることについては、事業の実施方法として、領収書等の実績を見て補助金を支払うこととすると、市外業者への発注しているものの領収については対象外にしなければ、と考えている。

（会長）あくまで市内業者への発注に許可を出す、ということで間違いないか。

（事務局）それで間違いない。

（事務局）一点補足だが、中心市街地に特化した事業もあるので、中心市街地よりも補助限度額が少し下がってくる。中心市街地の補助金と同等とまではいかないと思われる。

（会長）中心市街地の場合、１件あたり補助金がいくらか

（事務局）二分の一補助となっており、限度額は100万円。これは国の補助事業を使っているため、限度額も少し上げている。

（会長）防府市の場合は上限が20万円。商売をしたことがないため分からないが、少ないように感じる。もう少し金額をあげて、大幅にリニューアルした方が効果があるのではないか？

（委員）奨励金のようなニュアンスがあると思われる。20万円というと、大きな補助というわけではないが、事業者としてはそのような制度があれば、勢い作りやきっかけづくりにはなるのかなと考えている。もちろん、０と２０万円では大きく違うと思うし、２０万円でも少ないという声もあるが、やっていただける最大限はしてもらえているのではないかと。事業者として支援していただくほうの立場なので、少ないではないか、といいにくいところはある。

（会長）まだ２０万円と決まってわけではないので、これから不公平の無い様バランスよく進めていければと思う。

（事務局）考え方としては、金額が少なければ広く行き渡っていくが、金額が大きくなると、一年に支援できる件数も限られてくるといったこともありうる。どちらの形にするかは考えていかなくてはならないと考えている。

（会長）この事業に関しては岩国市に必要だと感じるので、是非実施してもらいたい。

-キャッシュレス推進事業について-

（委員）いわゆるインバウンド対策と思われるが、外国人観光客は今後増えると思われる。

　こういったキャッシュレスの機械が入ると、外国人客は８倍を見込むともいわれている。

キャッシュレス端末は、外国人観光客がまったく来ないお店が大体50％はあるがそのお店にはどうなるのか。50人以上来るというところは外国人客が来るお店の8割ぐらいと聞いている。

逆に、他にも外国人客を迎えるにあたってのニーズも色々あるが、たとえばWi-Fiを設置するとか、英語対応を進めるとか、キャッシュレスの端末をつけることにこだわらず、幅広く店ごとのニーズに合わせて何を導入するか選択してもらうメニュー制にするのも良いと思うがどうだろうか。

（事務局）Wi-Fiの設置の場合、店舗の地域ごとの回線の有無や、英語対応の場合メニューだけでなくアレルギーの表示等も必要ですぐに導入は難しいと思われる。まずはキャッシュレス端末が一番導入しやすく、効果も大きいと思われるため当課の事業としては最適ではないかと考え検討・提示した。

（会長）外国人客があまりないお店に関しては、積極的には導入を考えない店舗も多く、この事業の効果等に関してもあまりぴんと来ていないと思われる。こういった事業は観光のほうでもしているのではないかと思われるので、観光プロモーション等と連動して実施すべきと感じる。

廿日市も外国人観光客が増えているため、バスの運行等を実施しているらしい。このように色んな事業と一体化してやっていく必要がある。広島・九州あたりだけでなく、山口もこれから外国人観光客が増えると思う。個人的には山口県内では岩国には観光の見所があると感じているので、うまくやっていってもらいたい。利点など周知し、積極的に導入していくように働きかけていってもらいたい。

（委員）端末の導入に関して、資金や手間の問題から敬遠される可能性があると思われるので、導入にむけてやさしくリードしていく必要があるのでは。手数料等がネックになる方もいるだろう。

（委員）どのように運用していくかはきちんと考えておかねばならないと思う。カード会社の端末導入のキャンペーン等もあるので関連して実施すると良い。キャッシュレス端末が複数ある場合補助を複数受けることができるのか、それぞれの場合においての導入についてつめておくべきである。

（会長）対象事業者は拡充できるのか？

（事務局）現在はあくまで案のため、検討次第でいかようにも変更する。

（会長）対象事業者を広げる方向のほうが良いと思うので、ぜひお願いしたい。

-人材確保支援事業について-

（委員）補助率等資料３に記載がないが、先ほどの説明だと宇部市の実施内容を岩国市に当てはめるという解釈でよろしいか。

（事務局）現状では補助率等検討に至っていないので、宇部市を引用したのはあくまで参考である。

（会長）個人的には大学生を対象にした施策が必要であると感じているのでぜひとも進めていただきたい。実際のところ、どれだけ効果があるのかはわからないが。

（事務局）他市他県では目的別に設定をしているものもある。島根県に関しては独自性をだしてIT人材確保のために補助をしたり、長野県の伊那市ではインターンシップ促進事業というもので、インターンシップの受け入れに関する補助とか、企業様に対して各種の補助を用意している。とても幅広なものであるため、まだ細かくは決め切れていない。

（委員）大学生対象の事業について事業承継をにらんだインターンシップ等様々な施策が実施されている。山大の学生でも地元志向が多い。大企業ばかり狙うだけではなくなっているので、チャンスだと思われる。

問題の1つとしては親というのも出てくる。山大にきている学生さんも、それぞれの地元に戻りたいという子が増えている。そういった学生は大体銀行か公務員を志望する。ただ、これがダメだったときの情報がまったくない。地元の企業に関して本人も学校も情報が無い。そこで親を使って地元の企業について聞くなりしている。なので、親対象の就職説明会があると、親としても子どもが地元に戻ってくるように、と話す機会になるのでは。親としては子供が戻ってきてくれる、という安心感が出ると思う。

また山大にきている留学生は意外と日本に残りたいという学生さんが多い。こういったところも形にしていけるとよいのでは、と感じた。

（事務局）実は親を対象にした事業というのも事務局内で話にあがっている。ただ、あまりにも幅が広すぎる。企業訪問等で企業さんにお話を聞くと、例えば東京等で行われる合同説明会への支援がほしい、という声もある。支援事業にかなり幅広なところがあり、どうやって実施していくかというのが絞りきれていない状態。そのため、このような大まかな書き方をさせてもらっている。ちょっとまだ勉強が必要かなと思っている。

-シェアオフィス・インキュベーションオフィスの開設について-

（会長）場所は決まっているのか？

（事務局）まだ設定していない。

（委員）私自身、10年ほど前に日本インキュベーションセンターという協会が立ち上がったときに育成講習を受講したことがある。創業支援に関しては、起業した人が集まる雰囲気も重要だと思う。また、そこへ起業したい人も集まり、両方が1つの輪に入り、互いに手助けをしたり、アイデアを出し合うというような、仕事をするためのコミュニケーションの場の創出というのがインキュベーションセンターであったり、シェアオフィスだったりする。岩国はそういったものが無いので、大きな課題の１つではないかと思う。具体的なことがやっていけるのであれば非常に重要な案件になるのではと思う。

（会長）創業やインキュベーションだけだとどれほど効果があるのか気になったが、フェイスブックを見てみるとそれ以外のイベントもかなりやっていた。アロマセラピーやデザインワークなど、商店街でいろんな人が利用できるような仕組みになっている。そしてほぼ毎日大きなイベントを実施している。インキュベーションだけでなく、交流の場としても使っていけたらよいのでは。商店街といっても、物を買うだけではダメなので、こういう場があればいいなと思う。高齢の方が集まって、かなり盛り上がっている商店街もあるそうだ。こまめなイベントで盛り上げていけたら。

（委員）他都市のインキュベーションセンターを見ると、施設にお金をかけた割に人の出入りがあまり無かったりする。逆にパチンコ屋を改装したセンターが5000人くらいの利用者がいたりする。何が違うのかというと、やはり鍵になる人物であったり、物･ことがあるかどうかということだと思う。そのためにはそういった制度や財源は大切になってくると思う。

（会長）このインキュベーションセンターの横に観光センターのようなものがあるとおもしろそうだと思う

（事務局）今提示したものはあくまで案ということで、熟度もそれぞれで違っており、実際に31年度に予算が計上できることもあるし、できないものもある。事務局の方で熟度をあげていく予定。また、今たたき台で4つの案を出させてもらっているが、これ以外に、新たなご提案や、あるいはこれまで実施している事業で、これはもう不要なのではないか、というようなものがあればご連絡いただけたらと思う。

（事務局から次回の予定について報告）

　次回は秋ごろ開催予定